

## 第14回OECD/Japanセミナーについて

文部科学省では、OECD（経済協力開発機構）が実施する教育事業への協力の一環として、平成4年度より日本国内でOECD/Japanセミナーを開催している。このたび、第14回OECD/Japanセミナーを下記のとおり実施した。

1. テーマ “Strong Performers and Successful Reformers – Lessons from PISA”  
「教育の質の向上－PISAから見る、できる国・頑張る国」
2. 日時 平成23年6月28日（火）～29日（水）
3. 主催 文部科学省、OECD
4. 概要

### 6月28日(火) 全体会合（オープンセッション）

場 所 学術総合センター 一橋講堂（東京都千代田区）  
参 加 者 32カ国・地域から370名が出席

#### 1. 開会式

高木義明文部科学大臣（金森越哉文部科学審議官代読）  
アート・デ・ゲウス OECD 事務次長



## 2. 今日の学校制度と明日の世界

学校制度が若者に明日の世界で必要となるコンピテンシーを身につけさせるには、また、教育改革が果たす役割は。

アンドレア・シュライヒャー OECD事務総長教育政策特別顧問・指標分析課長  
マイケル・フラン カナダ オンタリオ州首相教育アドバイザー

シュライヒャー課長から、PISA 調査の概況と、そこから推測される各国の教育の状況について説明があった後、フラン氏から、21 世紀に必要となる、身につけるべき知識やスキルの質の向上のために、教育制度の改革が果たす役割と、その成功のためのポイントについて、2 日間のセミナーのベースとなる予備的な報告がなされた。



## 3. 大臣によるラウンドテーブル：好成績をあげている、または急速な成績の向上を示している教育制度の改革軌道から学べること－政策的観点

学習成果と生徒の学習への取組の改善－好成績をあげている教育制度のもとで達成できるものと、変化の激しい世界で好成績を維持するための課題とは。

議長：バーバラ・イシンガー OECD教育局長

ラウンドテーブル講演者：ヘン・スイキャット シンガポール教育大臣

トールス・ルン・ポールセン デンマーク教育大臣

デイビッド・ハンコック カナダアルバータ州教育大臣

ミロスワフ・シエラティツキ ポーランド教育国務大臣

鈴木寛 日本文部科学副大臣

各国の大臣から、各々の近年の教育改革の状況について、政策的な観点からの報告があった。シンガポール、ポーランド、カナダアルバータ州からは、困難な状況下での教育改革の遂行とその成功について、デンマーク及び日本からは、PISA 調査の結果を受けた改革の方向について、それぞれの大臣の所見を交えて報告された。

ヘン大臣（シンガポール）

「教育は常に現在進行形の仕事である。何故ならば、それは子どもたちに、我々が知らない、そして変化し続ける世界に備えさせようとするものだから。」

ポールセン大臣（デンマーク）

「PISA 調査の特色は、データに基づく教育文化を強化しただけでなく、そのデータを国際的な観点から検証しようとする点にもある。」

ハンコック大臣（カナダ・アルバータ州）

「我々は子どもたちをその将来のために教育するのであって、我々自身の過去のために教育するのではない。」

シエラティツキ大臣（ポーランド）

「次に何をすべきか。これを考えるために、エビデンスが重要である。」

鈴木副大臣

「我が国では、コンクリートから人へのスローガンのもと、教員の数と質を確保するとともに、PISA（や全国学力・学習状況調査）の結果等、エビデンスに基づいた教育改革を着実に進めていく。」



#### 4. ラウンドテーブル：好成績をあげている、または急速な成績の向上を示している教育制度の改革軌道から学べることー研究及び実践的観点

21世紀における効果的な学習のため、教員はどうあるべきかに関する研究と実践からの教訓。

議長：高岡信也 教員研修センター理事

ラウンドテーブル講演者：パジ・サールベルグ 国際流動・協力センター長

マイケル・デイ 学校訓練開発機構訓練局長

佐藤禎一 国際医療福祉大学・大学院教授

バハヌディン・トラ インドネシア研究開発局長

ジョン・バングス OECD労働組合諮問委員会教育委員会議長

フィンランド、イギリス、日本、インドネシアの専門家から、各国における教員の役割とその質の向上のための取組を中心に、近年の教育改革の状況について、実践的な観点からの報告があった。OECD労働諮問委員会からは、教育改革の遂行における教員本人の理解と参画の必要性、そのための教員組合の役割について強調された。



#### 5. 教育制度の文化的基盤に関する知識を教育改善に活かすための方法

東アジアと欧米諸国の教育文化ーそれぞれの違いとそこから学べるもの。

ビビアン・ステュワート アジアソサエティ機構教育担当上級顧問、

ヅァン・シェンリー 香港大学研究員・前上海 PISA センター研究員

ステュワート氏から、近年のアメリカの教育関係者が、アジアの教育から学んだ教訓や、両者の共通の課題に関する考察について、報告があった後、ヅァン氏から、上海における教育の状況と、その背景にあるアジア特有の教育に関する文化的背景や価値観について、報告された。



## 6月29日(水) 専門家会合（クローズドセッション）

場 所 学術総合センター（東京都千代田区） 一橋講堂、中会議場他  
参 加 者 32カ国・地域から80名が出席

### 6. 効果的な改革のデザインと遂行及び政策の遂行における課題の克服

改革の遂行のための実用的ツールの開発－政策立案者はどのようにして改革を広げていくための強固でエビデンスに基づいた基礎を構築することができるか、また、どのようにして効果的な改革遂行の計画を立て、後戻りせず改革を広げていく文化を創造できるか。

マイケル・バーバー 前英国首相トニー・ブレア首席教育顧問  
リチャード・ページ・ジョーンズ ISOSパートナーシップ  
ジュリエット・メンデロヴィッツ オーストラリア教育研究所研究課長

バーバー氏とジョーンズ氏とともに、参加者は、イギリス・ブレア政権が実施した教育改革の遂行における様々な手法を参考に、「成功する教育改革」について、小グループによる参加者同士の討議を踏まえつつ議論した。

また、メンデロヴィッツ氏が、PISA／デジタルリーディングの概要について、説明するワークショップを実施した。



## 7. 包括的な制度改革に効果的な推進力の選択

教育政策と遂行が、教員や生徒に固有のモチベーションを高め、教育者や生徒に継続的に指導及び学習を改善させ、集団的チームワークを促進し、全ての教員や生徒に影響を与えるには。

マイケル・フラン カナダ オンタリオ州首相教育アドバイザー

フラン氏から、教育政策の正しい推進要因（能力構築、チームやグループの育成、テクノロジーの利用を推進する指導や教授法、体系的な政策と戦略）と誤った推進要因（責任の追求、教師や学校長の個人的能力への依存、テクノロジーそのものへの過信、まとまりのないイニシアティブ）について、カナダのオンタリオ州を中心に、各国の事例を挙げつつ説明するとともに、参加者とともに、各国において「どうすればさらにうまくいくのか」について議論した。



## 8. 結論—これまでに学んできたこと、これから進むべき道

政策と実行に向けた教訓

PISAの将来と教育国際比較のための教訓

閉会の辞：バーバラ・イシンガー OECD 教育局長

藤嶋信夫 文部科学省国際統括官

